

くるめの文化財

平成元年3月

第5号

東久留米市教育委員会

平成元年に新たに指定された文化財

東久留米市では、私たちの祖先が残してきた貴重な文化財を保護し、後世に伝えていくためにいろいろな施策をもって努力していますが、その一環として、昭和42年以来、東久留米市文化財保護審議会の答申のもとに、特に重要なものについて、市の文化財として指定することを行ってきています。

ここでは、平成元年2月22日付をもって新たに指定された3件について紹介します。



▲ 加藤清正虎退治の絵馬

○加藤清正虎退治の図 市指定有形文化財

武勇をもって有名な加藤清正が襲い来る虎を片鎌槍をもって退治する図は、武者絵馬の代表的画題の一つ。

ただし、この虎はやや正体不明の顔立ちをしている。

文政4年(1821)8月に奉納されたもので、東久留米市内では年記の明確な最も古い絵馬。美術的にもすぐれ、江戸時代の文化を知る上で貴重。

縦51cm、横69.5cm、南沢氷川神社

○成蹊学校跡 市指定旧跡

所在地 八幡町2丁目10(現市清掃課用地)

東久留米市における初期の尋常小学校。

前沢、下里、柳窪等久留米の西側を通学区域とした。

第一小学校の前身。明治17～明治39年。

明治22年からは、この小学校の中に村役場も設置されていた。

○共立学校跡 市指定旧跡

所在地 本町4丁目21(多門寺の前)

成蹊学校跡と共に第一小学校の前身となる尋常小学校。

南沢、小山、門前、落合、神山、柳窪新田等久留米の東側を通学区域とした。

明治18年～明治39年。



◀ 共立学校跡(多聞寺前のヒバの木)

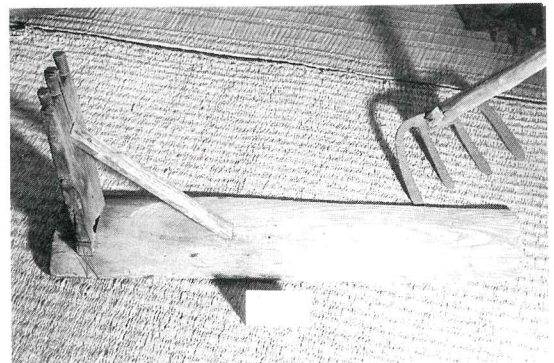
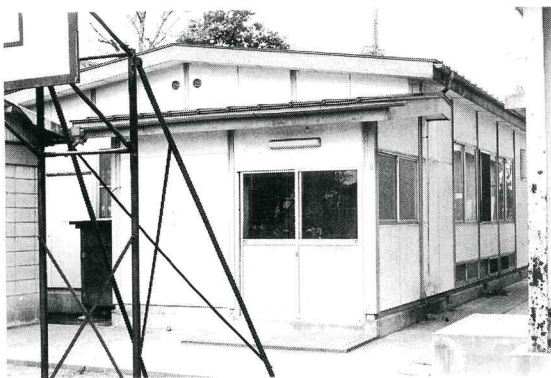


民具とは、私達民衆がふだんの生活の中から生み出し、使いながら伝え受けついできた道具類の一切をさします。

東久留米市では、そうした民具、いわば有形民俗文化財を他の文化財と同様、保存・活用するために調査・研究を続けていますが、現在のところ、それらを収集・保存・研究・公開する「場」である博物館が存在しません。

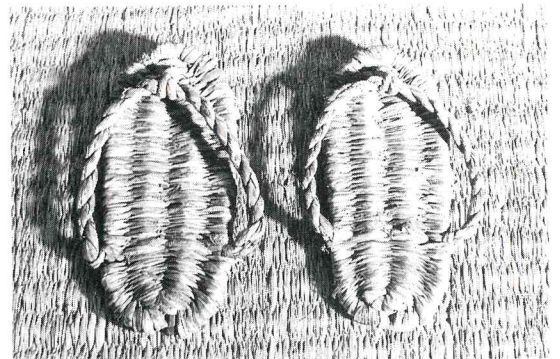
そのため、緊急策として、市内小学校の余裕教室を利用し、簡単な収納・展示を行い、学校教育の生の教材として役立てながら、その収集と保存をはかっています。

第3小学校郷土資料展示室は、市西部の市民具保存展示館（本村小学校内）、東部の第4小学校郷土資料展示室に続く、3つ目の施設となります。



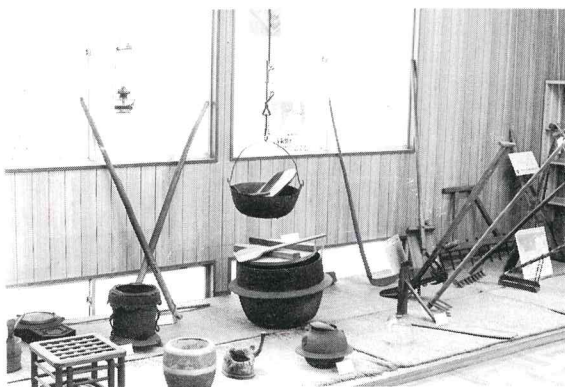
●ワラジナワ台

ワラを燃ったナワをナワ台にかけ、これを芯にしてワラでワラジを編みあげる。



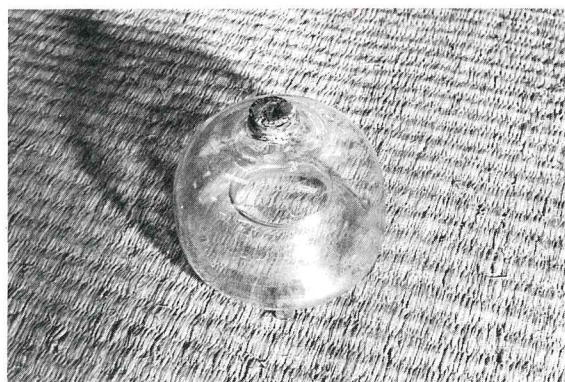
●ワラジ（藁草履）

藁を編んでつくった草履をワラジ＝ワラゾーリというが、これは竹の子の皮で編んだもの。



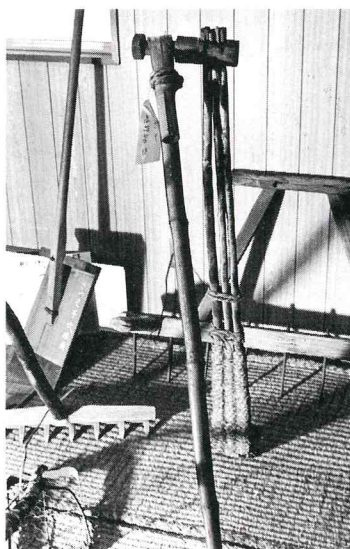
●ネコゴタツ

縦33cm、横33cm、高さ30cmと小形。中に小さな火鉢を入れる。この上にフンをかけ、足をフンの中に入れて暖をとる。



●ハエトリ器

特殊な形のガラス容器の下に、ハエ寄せのエサをおき、それに集まったハエが飛び立つと容器の中に入り込んでしまうという仕組み。しかし、返し口になった入口からは出にくいようになっている。容器の中には水をはっておく。



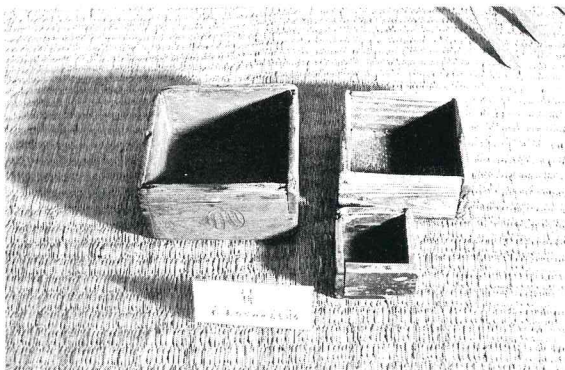
●クルリ棒

麦の穂や豆のサヤなどをたたいて脱穀する道具。カラサオ（唐竿）、稲打棒ともいう。

竹竿の先を曲げて回転軸をつけ、それに打棒をつけて回転させてゴザの上にひろげた麦の穂や豆のサヤなどをたたいて脱穀する。これをボーチ（棒打）という。



●大砲の弾



●マス（枡）

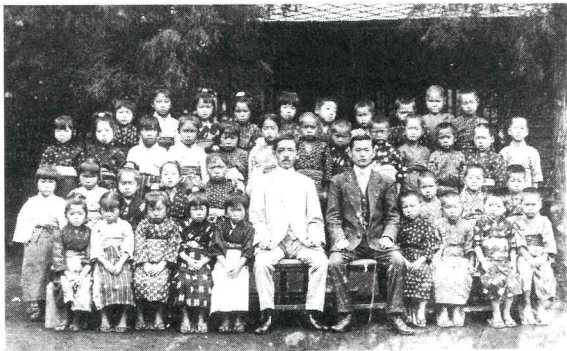
穀物を計量するための木製の容器。一合マス、五合マス、一升マス。一升は十合、約1.8ℓ。10升は一斗。

ちなみに、米・麦が重さで計られるようになったのは第二次大戦末～戦後のこと。

米一斗で4貫=15kg弱。米一俵は四斗=16貫=約60kg。



▲ 明治時代当時の東分教場
(共立学校)
(二本のヒバの木がある。)



▲ 大正時代の東分教所 (栗原正治氏提供)
後方に2本のヒバの木がわずかにみえる。

明治34年に満7歳で小学校へ上がった島崎トミさん(旧下里村)のお話によると、当時は近所の人でも学校へ行かない人が多かったそうです。以下はその頃のお話しです。

ノートは自分で作った。半紙を四つに折ってたたんでこよりを擦ってキリで穴をあけて作る。

勉強は修身に読本に綴り方、そろばん、それに理科・歴史・図画など。

学校の始まりはレイというものをチリンチリンと鳴らす。

先生はかすりの着物に小倉の袴。こわかった。ムチもってきて机をピシイピシイとやった。体はたたかなかった。でも先生はよくいろいろなお話しをしてくれ、また休み時間には一緒になって遊んでくれた。

本屋は所沢まで行けばあった。

「ふるさと昔語り」より。

○ 昭和63年度市に文化財を寄贈して下さった方
(敬称略)

- | | |
|------------|--|
| 齊藤敬子 (滝山) | 棹秤 |
| 神藤正雄 (東本町) | 龍吐水 |
| 中島庸夫 (中央町) | 脱穀機、粃すり機、製粉機。 |
| 平山節子 (小山) | S Pレコード |
| 二上雪治 (本町) | 12サンチ榴弾砲 |
| 高橋昌好 (小山) | ハエトリ器、手あぶり、スゲガサ、マス、鉄ナベ、しょう油樽、押し切り、ゾーリ、肥おけ、むしろ、給桑台、棹秤他。 |

☞ 文化財に対するお問い合わせは

市役所 73-5111

内線 343 文化財担当

まで

... * ...

〈編集〉

東久留米市教育委員会

社会教育部社会教育課

〒203 東久留米市幸町3-11-10